



【医療機関 導入事例】

新潟県厚生農業協同組合連合会 佐渡総合病院 様

新潟県佐渡島で日常医療において、唯一の総合医療施設として位置付けされる佐渡総合病院。
島民の生活基盤となる医療機関に関して、
医療情報システムのインフラ設備にも更なる信頼性・可用性・経済性を向上させるため
シュナイダーエレクトリックのモジュール型統合UPSが採用された。

JA 新潟厚生連

佐渡総合病院

病院長
佐藤 賢治 氏



新潟県厚生農業協同組合連合会 佐渡総合病院(以下、佐渡総合病院)では、新潟県初のVNA※を導入した電子カルテのリプレイスを契機に、シュナイダー製のモジュール型UPS「Symmetra PX」を導入。今回の導入を自ら陣頭で指揮を執った病院長 佐藤 賢治氏がその経緯と想いについて語った。

導入背景

地域医療を支える病院の基盤として、安定したシステム構築の必要性。

電子カルテのリプレイスに伴うコスト削減の必要性からVNAを導入。そのシステムの核となる電源設備の再検討。

導入製品

Symmetra™ PX
30kVA / 30kW × 1セット

NetShelter™ SX × 9台

導入効果

小型UPSを用いた個別分散設置から、集約を配慮し統合型UPSでの電源一元管理を実現。

導入から運用までの費用(初期および運用費用)を加味し、全体コスト(TCO)を削減。

オンサイトサービスを契約する事で、有事の際のシステム運用継続に対する信頼性を担保。

従来の床下配線ではなく、ラック上部配線にすることで、配線に関するメンテナンス性を向上。

電源設備の重要性を唱える病院長自らが選んだシュナイダーのモジュール型UPS。

佐渡総合病院は病床数354床を有する、島で唯一の手術・分娩が可能な中核病院。島内の救急搬送の9割を担う一方で、医師一人あたりの外来患者数が県内最多という生活密着型の病院でもある。すべての医師が当院から徒歩10分圏内に住み、緊急時に駆けつける体制が敷かれていることから、島内最後の砦である自負と、日常医療の中核を担う使命感がうかがえる。

2017年12月、当院では、電子カルテのリプレイス時に新潟県初となるVNAの導入を決定した。経緯について、佐藤氏は「電子カルテの更新には、病院情報システムすべての更新が必要です。放射線、血液検査、内視鏡と部門ごとにデータを保管しており、それぞれハードウェアもシステムも異なります。そのすべてを更新するには多大なコストが必要になるため、データを一つに取り込むことができ、コストを抑えられるVNAの導入を決めました」と語る。

最先端の病院情報システムの導入にあたって、さらに佐藤氏は「(病院情報システムにおいて)サーバールームは基幹中の基幹ですので、電源周りは万全を期す必要があります。また、監視体制や保守契約も含めた電源の一元管理は病院情報システムの前提条件であり必須条件だと考えています」と力説する。

そして佐藤氏の意向を受け、システムリプレイスに合わせた電源設備としてシュナイダーが提案したのが、モジュール型UPS「Symmetra PX」だった。

※VNA(ベンダーニュートラルアーカイブ)とは、病院内の各診療科ごとに異なる規格等で保管されている画像やカルテなどの情報を一元的に管理・保管できる統合システムのこと。

信頼性・可用性・経済性の向上への実現を期待し、 ラックを含めたシステム基盤に対する全体提案を評価。



当院では従来、電子カルテや部門システムなど個別に小型UPSが使われていたが、モジュール型UPSである「Symmetra PX」によって電源バックアップ環境を集約統合し、システム基盤の電源環境に対し一元管理を実現。統合型UPSがもつ、各モジュールのホットスワップ機能により、UPSの保守対応時またはシステム拡張作業時に、システムのダウンタイムを発生させないことは、システムの可用性が求められる病院においては考慮すべき重要なポイントである。

UPSのランニングコストについても削減が可能と今後の運用への期待をよせている。「バッテリーが消耗してから交換を行うのではなく、定期的に事前バッテリー交換を実施するのであれば、トータルコストの削減を図れると思います」

さらに、上部配線のメンテナンス性の良さに興味を持っていたという佐藤氏は、シュナイダー製のラック「NetShelter SX」も導入した。「通常、ラックの配線はOAフロアを使って床下に配線します。しかし配線後のケーブルをメンテナンスする際には、そのエリアの床パネルを開けなくてはなりません。しかしメンテナンスしたいエリアには機器が据え付けられているので、床パネルを開けられずメンテナンス作業ができないのです。そのため床下配線はメンテナンス性がよくないと以前から感じていました」と語る。



また、「ラック配置も室内全体の空気の流れを踏まえて、空調環境にも最適なレイアウトをシミュレーションし配置案として提案いただきました。設置については従来ベンダー側にお任せしていましたが、配置案の根拠もご説明いただいたことによって、納得の上で採用し導入できました」とシュナイダーの総合的な提案内容についても評価していると述べた。

医療機器や情報システムの進化に合わせ、システム基盤も技術革新と対応を継続。

「電子カルテを導入している病院では、システムが止まってしまうと全業務に影響するのです。2018年10月のサーバールーム移転で全システムが停止したときには紙のカルテで対応しましたが、その間の緊急時には患者の過去データを見ることはできませんでした。もし準備なしに突然システムが停止してしまったら大騒ぎになることでしょう。だからこそ、システムの『足元』である電源設備を堅固に構築し、確実に保守しておくことが重要だと考えています」と佐藤氏は言う。

当院では、島全体の生活を支えている病院として、情報システムが盤石であることは当然であり、それゆえにシステムの生命線となる電源環境に最大の注意を払っている。また有事の際の対応についても万全を期し入念な事前準備や訓練を実施している。

医療機器や病院情報システムは今後ますますの進化を遂げる。佐渡総合病院でも充実した医療を提供し続けるために、システムや設備は常に進化に追随し刷新され変化していくだろう。その病院の土台を構築するベンダーとして、シュナイダーエレクトリックは今後も最新ソリューションを提供できるアドバイザーとしての役割を果たしていきたい。





製品カタログ一覧
<http://catalog.clubapc.jp/>



導入事例一覧
<http://catalog.clubapc.jp/#09>



シュナイダーエレクトリック ジャパングループ 会社案内
http://catalog.clubapc.jp/company_profile.pdf



シュナイダーエレクトリック ウェブサイト サイトナビゲーター
<http://www.ups-navi.jp/navi/>

新潟県厚生農業協同組合連合会 佐渡総合病院様 企業紹介

- 事業概要：1935年に開院。2018年4月現在、標榜科数25科、病床数354床を有する佐渡島の中核病院として、救急、高度医療から予防、検診まで島内の医療の多くを引き受けている。2011年11月に現病院へ移転し、電子カルテ導入、検査・治療機器の充実、救急搬入・搬出に即応できるヘリポート設置など、中核病院としての機能を大幅に強化した。また、佐渡における医療・介護情報を共有し、多施設・多職種連携を進める「さどひまわりネット」に参加。佐渡全体での医療・介護提供体制へ積極的に貢献している。
- 所在地：〒952-1209 新潟県佐渡市千種161番地
- 設立：1935年10月
- URL：<http://sadosogo-hp.jp/>

シュナイダーエレクトリック株式会社

〒108-0023
 東京都港区芝浦2-15-6 オアーズ芝浦MJビル
 TEL:03-5931-7500

se.com/jp
apc.com/jp

February 2019

©2014-2019 Schneider Electric. All Rights Reserved. Life Is On Schneider Electric is a trademark and the property of Schneider Electric SE, its subsidiaries and affiliated companies. All other trademarks are the property of their respective owners.

Feb2019-SGH

Life Is On

Schneider
 Electric